

東京社保協ニュース

東京社会保険推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索

第47回社保学校を開催



各団体・地域から174人が参加

東京社保協は9月17日、第47回東京社保学校をけんせつプラザ東京で開催し、23団体33地域社保協から174人が参加しました。

社保学校は、須田昭夫会長が開会あいさつを行い、中央社保協の山口一秀事務局長が連帯あいさつを行いました。東京民医連の西坂事務局次長の司会で学校は進められ、第1講義は中野晃一氏（上智大学教授）が「安倍9条改憲と秋からの闘い、阻止の展望」と題して行われました。



中野晃一教授

講演では、政治学者の立場から、理想を現実のものとする「決意表明」「誓い」としての日本国憲法、憲法改正論議の展開と現状、安倍自民党の「実力」と選挙戦略など、自民党政治のウラ話や沖縄県知事選、総裁選なども交えながらわかりやすく話されました。

昼食休憩をはさみ、午後からは福祉保育労国米常幹の司会で再開しました。

第2講義は、芝田英昭氏（立教大学教授）が「基礎から学ぶ社会保障、その概念と役割」と題して行われました。

講演では、社会保障と生活問題の関係や社会保障の役割と機能、基本的人権と社会保障など、社会保障の概念を丁寧に報告されました。また、講

演の最後に、2017年の介護保険法等改正法で社会福祉法が「改正」され、法の4条に2項が加えられ、地域福祉の推進は「地域住民等」が担うことが明記され、自治体の責任が地域住民の「支援」に矮小化され、憲法25条における国や自治体の社会保障「向上・増進義務」との齟齬が生まれていると指摘しました。

第3講義は、折田眞知子氏（日の出町・町議）が「住民に顔を向けた地方自治」と題して講演を行いました。

講演では、「日本一の福祉の町づくり」をめざす日の出町の少子化対策と高齢化対策について、少子化助成事業の内容や75歳以上医療費無料化の財政状況と高齢者の医療費の動向などについて豊富な資料に基づいて報告し、「75歳以上医療費無料化は予算の1%で可能」「その結果一人当たり医療費は東京平均より20万円も低い」「高齢者対策だけでなく少子化対策も重要で、出生率も増加し人口も増えている」と、住民の運動で町長に決断させたことなどを報告しました。

その後、①都立病院の地方独法化、②生活保護基準引き下げ、③35人学級に実現、④安心できる年金制度の確立などの署名の訴えを行いました。

これを受け、寺川事務局長が当面の行動提起として、①引き続く25条署名の推進、②75歳以上2割負担反対、③国保料等の軽減を東京都に求めること、④秋から年末にかけて、憲法改悪阻止の取り組みの強化、⑤相談活動を各地で展開しようと訴えました。

最後に、石村英明副会長が閉会あいさつを行い社保学校を閉会しました。



芝田英昭教授



折田眞知子氏

各地域・団体の取り組み

渋谷社保協



渋谷社保協は8月29日に第28回総会を開催し50人が参加しました。

総会では、福井会長が「障害者の母として官庁や自治体による障害者雇用の偽装報告には怒りが一杯です、曖昧にはしてはいけません。この1年は社保改悪との闘いの1年でした。本総会を機に闘いを発展させるスタートにしていきましょう」と挨拶しました。立憲民主党の治田学区議からは「区民のための区政となるように力をあわせていきましょう」、共産党区議団の田中正也区議からは「大企業奉仕の区政と安倍政治を一緒に変えましょう」、東京社保協の寺川慎二事務局長からは「高すぎる国保料を引き下げさせる運動をはじめ、社保改悪と9条改憲を止める運動を広げよう」と、それぞれ連帯の挨拶がありました。

嘉瀬事務局長が活動総括・方針提案を行い、区議会への請願、なんでも相談会の継続、学習・宣伝・署名など、1年間の活動を振り返りました。

方針では、地域で介護・医療・社会保障改悪を



許さないために、一層の取り組みの強化や、人に寄り添う活動にも取り組みましょうと提起了しました。

討論では、幡ヶ谷在住の龍野さん、代々木法律の鳥飼弁護士、広

尾病院を守る会から金井さん、代々木健康友の会の伊香さんから発言がされ、議案を深めることができました。

報告と討論での発言を受け、2017年度の総括、2018年度方針、予算、役員体制などを全体で承認しました。最後に、社会保障の実現を目指すことを呼びかける特別決議を採択して総会を終了しました。

第2部の記念講演では、後藤道夫氏（都留文科大学名誉教授）を講師に、「地域ケア、我がごと・丸ごと地域共生社会をどう考え、どう対抗するか」と題する学習会を開催しました。

後藤先生は最初に、単身や老々世帯の増加で家族介護の条件が後退していること。また、貧困世帯が増えているなど生活環境の変化に触れました。次に、介護保険制度は「介護保障を目的としていない。



あくまで、自助・家族の努力を前提とした支援でしかなく、それも商品購入の費用助成に過ぎない」ものであり、その本質を見誤ってはならないと強調しました。

そして、制度の改悪を進めながら、介護そのものを儲けの場にしていく産業政策が進行していること。ますます介護が受けられなくなるという状況を、個人・家族・地域に押し付けることが「地域ケア・我がごと・丸ごと地域共生社会」であり、介護保険の利用をさらに遠ざけることを狙っていると強調しました。

対抗策として、困難事例を放置しないで関わっていくこと、個々バラバラに対応するのではなく、地域の中で問題提起、情報交換、ネットワーク作りを広めていくこと。また、介護保険制度以外の制度も活用していくことなどを示し、制度改善と対応は両輪であり、地域でのつながりを深めていくことが求められていると締めくくりました。

（渋谷社保協ニュースより）

世田谷社保協

世田谷社保協は5月29日、保坂世田谷区長に対して2019年度要望を要請署名1,628筆を添えて提出し要請・懇談を行いました。

重点要請事項は、①介護保険の生活援助の利用制限問題と特養やグループホームの利用料・部屋代の家賃補助、②低所得者・多子世帯への国保料軽減と一般会計からの繰り入れ堅持、③都立松沢病院を独法化させるな、④インフルエンザ・肺炎球菌予防接種の無料化の4点です。

保坂区長は、世田谷区は介護の利用について症状が悪化しないようにしている。生活保護を受けている人が梯子を外され、具合が悪くならないように考えている。国保料の軽減は、特別区長会で都に対して責任を持って法外加算を継続するよう申し入れている。多子世帯の援助は、区長会として少子化対策と位置づけ、国がダメなら都で、都がやらなければ区で実施を考えている。

都立松沢病院は区の管轄外だが、母子保健院を無くしたのは今振り返れば愚策だった。東京都には松沢病院についても聞いていきたいと要請に対する賛意を表明しました。また、保険福祉部長からは、多子世帯の国保料軽減については区長会で検討しており、多子世帯軽減についての制度設計のシュミレーションを始めた。軽減策の中味として、軽減額の引き上げか対象者の拡大かについて特別区で検討していると発言しました。引き続き区への要請を強めていきます。

(世田谷社保協ニュースより)

都議会開会日行動

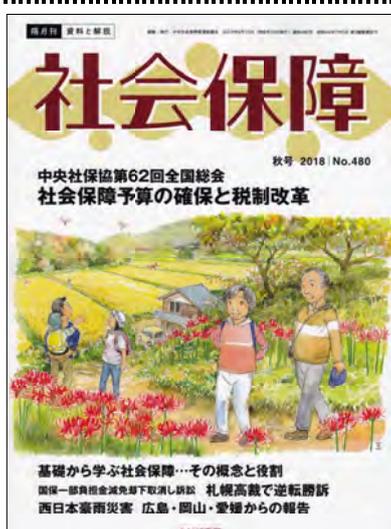


9月19日、都民要求実現全都連絡会主催の都議会第3回定例会開会日行動が行われ、250人が参加しました。

行動は、寺川東京社保協事務局長の司会で進行され、荻原淳東京地評議長が主催者あいさつを行い、徳留道信都議が会派挨拶を行いました。

決意表明は、築地市場移転問題で中沢東京中央市場労組委員長が、オスプレイ横田配備反対で窪田横田基地撤去の会事務局長、都立病院独法化問題で氏家祥夫都立病院の充実を求める連絡会・共同代表の3氏が行いました。なお、個人請願は事前提出者を含め844人が都に提出しました。

なお、この行動の前段で、東京社保協は知事室に対する要請を福祉保育労とともに行いました。



「社会保障」誌の購読を

「資料と解説」が豊富で、激動する情勢や社会保障制度がよくわかる!役に立つ!学習や運動にぜひご購読を

- 定期購読 (年6回)
3000円 (送料別)
1部500円 (送料別)
 - 申込みは東京社保協へ
TEL 03-5395-3165
FAX 03-3946-6823
- * ホームページからも注文できます



「4の日」定例宣伝行動

- ・10月14日(日)11時～13時
巢鴨地蔵通り商店街入口
- ・11月14日(水)12時～13時
巢鴨駅

主催:東京社保協・中央社保協

2018年滞納処分・差押問題 東日本学習交流集会

日時 11月11日(日)11時～

会場 けんせつプラザ東京 資料代500円

主催:東京社保協 共催:中央社保協

憲法、いのち、社会保障まもる 10.11国民集会

日時 10月11日(木)13時～

会場 日比谷野外音楽堂

集会・リレートーク 13時～14時半

銀座パレード 14時半～16時半

(鍛冶橋交差点・解散)

主催:集会実行委員会

憲法25条を 守り、活かそう!

10.25中央行動

10月25日(木)
日比谷野外音楽堂
→厚労省包囲行動

スケジュール

- 12:00 開場
- 12:30 文化行事
中央集會閉会
- 13:00 基調報告・連帯あいさつ
聞いてください! 私たちの声を
●生活保護基準引き下げの生活実態
●年金削減は道義 世代を超える団結を
●75歳以上の医療費負担の増大は死活問題
●地方における保育労働者の深刻な人材不足
●待機児童の解消を
●障害者65歳問題の解決を!
●精神障害者の権利保障を!
●厚労年金訴訟について
●社会福祉事業の現場から
●やむがえ、喜びのある介護に
●地域医療を守る! 都立病院の増設法に反対
- 15:10 厚労省包囲行動
●生命の危機を感じて 夏季加算の創設を!
●障害年金訴訟について
- 15:30 閉会



※随時随所でグループ分けして以下の行動を並行して取り組めます
①記者会見 ②国会議員要請(厚労省前) ③厚労大臣・閣下訪問
集会後のデモ・パレードは行わず、厚労省包囲行動を実施します。

主催 「憲法25条を守り、活かそう」共同実行委員会

集會事務局 中央社会保険推進協議会/TEL.03-5806-5344 きょうせけん/TEL.03-5385-2223 全国福祉労働者連合会/TEL.03-5687-2901
障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会/TEL.03-3207-5937 全国生活と健康を守る会連合会/TEL.03-3354-7431
(お問い合わせ先) 日本高齢者運動推進協会/TEL.03-3354-6654 いのちのとりで福祉全国アクション/inotori25@gmail.com

11月11日は、「いい介護の日」

介護・認知症 なんでも

無料 電話相談

お気軽にお電話下さい!



高齢化がすすむなか、お金の心配なく安心して介護サービスを受けたい、すべての高齢者・家族の願いです。

しかし現状は介護職場の人手不足や、「負担が重くサービスを継続できない」「特養に入れない」など悩みは深刻です。

その悩みに答える「介護・認知症なんでも電話相談」を行います。介護の専門家、「認知症のひとと家族の会」の相談員がお答えします。

2018年 11月11日(日)10時～18時

でんわ 0120-110-458

中央社保協 中央社会保険推進協議会 公益社団法人 認知症のひとと家族の会

TEL.03-5806-5344 FAX.03-5806-5345

TEL.075-811-8195 FAX.075-811-8188

お問い合わせフォーム

E-mail:k25@shshokyo.jp

※メールでのご相談は平日の10時～20時をご利用下さい。